

〈東北支部〉

## 東北地区の大学における 就職支援の取組について

厳しい雇用情勢が続く中、人材育成にかかわる就職支援の取組は、大学において重要度を増している。

東北地区から、就職支援の取組全般について、岩手大学学務部支援課・後藤周悦課長より寄稿いただき、紹介する。

また、就職支援の取組の中からインターンシップについて、東北学院大学就職課・桔梗元子課長よりお話を伺い、紹介する。

### 岩手大学における就職支援の取組

◆「ジョブカフェ岩手大学スポット」の開設と就職相談事業の充実

一七年五月、学生の円滑な就職活動を支援することを目的に「ジョブカフェ岩手大学スポット」を「就職支援課」隣室に開設し、「ジョブカフェいわて」のカウンセラーによる定期的（毎週火・木、一二時～一五時）な就職相談（適

性職種の選択方法等）を開始した。開設一周年を迎え、年間サイクルでの相談傾向など利用状況（一年間で二一一名相談）についてデータ分析を行った。

◆大学教育総合センターの開設とキャリア教育の推進

一八年四月、「大学教育総合センター」を開設。同センターは、全学的な取組の中で人間的な成長の支援と魅力ある人材を育てることを目的としている。従来の大学教育センターは教育内容の改善に特化していたが、同センターは入学から卒業まで「丸ごと面倒を見る組織」。卒業後の進路に向けた学生の職業意識の醸成など「キャリア教育」の推進も視野に入れている。今年度前期に、「ジョブカフェいわて」と連携して職業意識を涵養しキャリアビジョンを描ける学生を育てることを目的に「キャリアを考える」と題した講座（一、三年度学生対象）を授業形式で一四回開催。この中に各界で活躍する本学OB・OGを講師とした講座も開催する。「キャリア」を単なる職業ではなく「生き方」として捉え、自らの人生について考え、就職への準備とすることが狙いである。

◆学内合同企業セミナーの充実と就職活動の実践

一七年度の「学内合同企業セミナー」は、三日間で三二四社の参加企業で開催、延べ二五二〇人の学生が参加した。就職率向上に貢献している事業の一つで毎年三月上旬に学



学内企業合同セミナー

内でブース形式により開催。採用担当者と直接面談し企業・業界研究として体験する貴重な就職活動である。同セミナーは四年前から始め、企業の要望により毎年規模を拡大してきた。

◆「企業訪問（開拓）の実施」東北六県の企業を訪問し、本学のPRを行うと共に訪問先企業の理解を深め、企業側と相互協力関係を築き就職先確保等に資することを目的とする。企業訪問は四年前から始め、学生の根強い地元志向を考慮し、今年度も東北六県の企業を訪問する予定である。

◆「就職情報管理システム」の活用

『「求人情報」公開システム』は、地域別、業種別等の条件設定により効率的に検索できるシステム。学生に好評で就

職率向上に大きく寄与している。訪問先企業の選定や「学内合同企業セミナー」の企業冊子の作成などにも同システムを活用しており、同システムへのデータベース企業数は間もなく五〇〇社に達する勢いである。また、「学生の進路・就職システム」の活用により、きめ細かな個別の就職指導・支援が可能である。

◆「岩手大学就職応援ブック」の発行・配布・就職活動の基本を学ぶ

「学部三年次、大学院一年次」学生に「就職応援ブック」を配布。マナー、身だしなみ、企業へのアプローチ法、試験に臨む心構えなど就職活動をす

表 就職支援状況の推移（学内合同企業セミナー、企業訪問、システム企業登載件数）

年度	就職支援課職員数	学内合同企業セミナー	企業訪問	システム企業登載件数	備考
13	2 (0)	—	—	—	・「学生課就職情報室」設置
14	3 (1)	56	55	1,500	・「就職情報管理システム」導入
15	4 (1)	108	77	2,000	・「求人情報」公開システム運用開始
16	5 (1)	216	129	2,700	・国立大学法人「岩手大学」発足 ・「就職支援室」（課から独立）設置
17	5 (1)	324	149	4,400	・「就職支援課」設置 ・「就職応援ブック」発行開始 ・「ジョブカフェ岩手大学スポット」開設

( ) はパート職員で内数

る上での必要事項が網羅され、学生には強い味方となっている。一八年度は内容を更にグレードアップし活用成果が期待される。

東北学院大学におけるインターンシップの取組

東北学院大学は、今年創立一二〇周年を迎える東北地区でも最大の規模を持つ私立大学である。同大学では、二〇〇四年度からインターンシップを本格的に導入した。東北地区は首都圏に比べインターンシップの受入れ先が少ない。そのような状況の中、同大学教職員は文字通りインターンシップの受入れ先を開拓し、平成一七年度実績は受入れ先一〇八社、参加学生数二五二名と、同大学の一割近くの学生が参加するに至っている。本格的導入から三年目を迎えるインターンシップの一端について、東北支部から紹介する。

◆「あいまいな気持ちで取り組まない」

インターンシップを希望する学生は、はじめにガイダンスを受ける。このガイダンスに参加する学生は毎年一〇〇〇人を超える。勿論、希望者全員がインターンシップに参加できるわけではない。同大学では、インターンシップにあたって「あいまいな気持ちで取り組まないこと」を、学

生に強く指導している。

事前指導も徹底し、社会人としてのマナーを身に付けさせる。学生は東北学院大学の看板を背負ってインターンシップに臨むことになるので期待感も大きい。なおインターンシップ期間中に就職部長をはじめ就職部役職員が受入れ先を訪問し、現場で学生との面談や担当者との情報交換を行っている。インターンシップ終了後についても、学生は報告書をまとめ、受入れ先担当者を招き報告会を実施し、約五〇〇頁に及ぶ報告書を発行するなど事後指導にも力を入れていく。

◆インターンシップの効果

インターンシップは就職に直結するものではないと言われる。しかし、インターンシップを経験することによって、学生自身が目標を見つけ、職業意識を高めることができる。事実、同大学でもインターンシップを経験したことにより、目標を見つけ憧れの職業に就職した学生がいるという。

また、受入れ先からは、日常業務のマンネリ化を防げる、インターンシップ用のプログラムを開発することが社員教育につながる、社員の意識改革の機会を得られるといったメリットが報告されるようになった。

東北学院大学の地域に密着した地道な努力が、徐々に実を結び始めている。